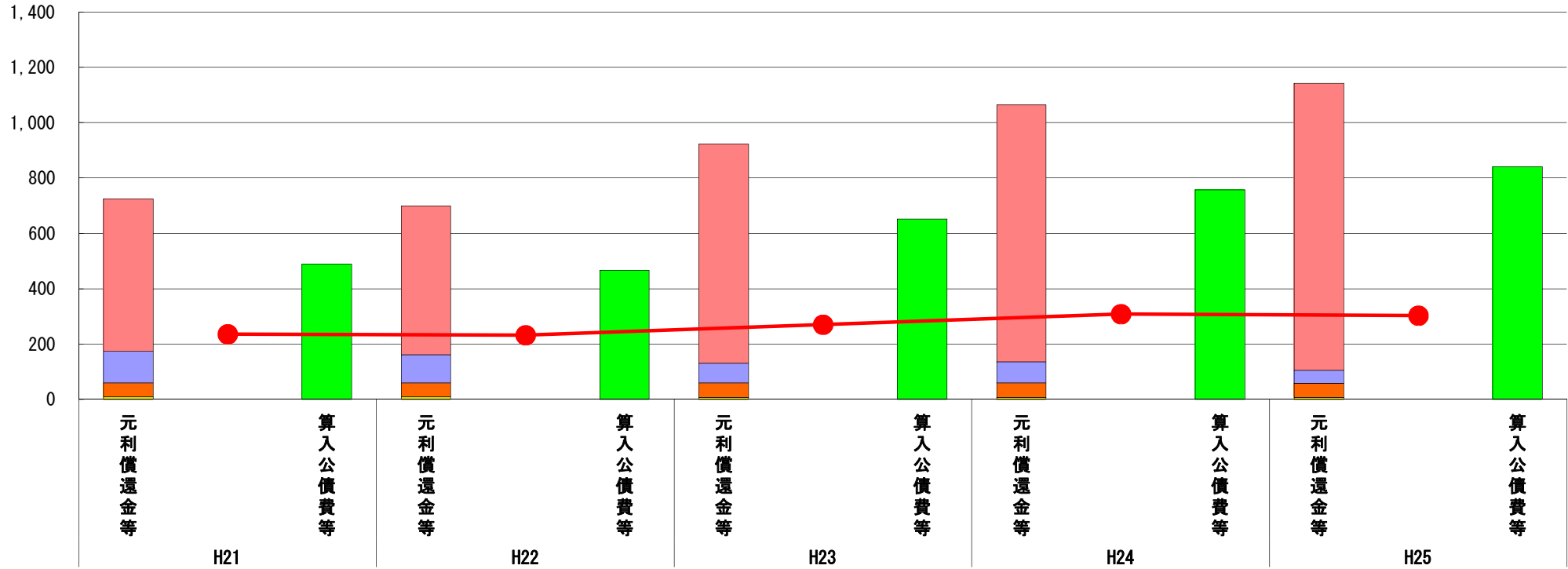


(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
元利償還金等 (A)	元利償還金		549	538	793	929	1,038
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		115	102	70	76	47
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		51	51	53	53	51
	債務負担行為に基づく支出額		9	8	7	7	7
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		488	466	652	757	840
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		236	233	271	308	303

分析欄

平成23年度以降においては、近年の大規模な普通建設事業実施に係る地方債の元金償還が始まったため、大幅な分子増加となっており、今後も同様の傾向を想定している。

これは、利率見直し方式に伴う中期的スパンでの長期金利上昇リスクを回避するため意図的に償還年数を圧縮した結果のため数値上昇は折込済みであり、かつ、普通交付税公債費算入となる有利な地方債が多くを占め経常一般財源を確保できるため、それほど懸念すべき状況ではないと思量する。

なお、平成23年度以降、下水道事業特別会計の公債費償還完了に伴う繰入金減少により、公営企業等繰入金に係る分子は減少傾向にあり、今後も同様に推移するものと思量する。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。